

I 上尾市の概要

1. 位置

上尾市は埼玉県の南東部に位置し、東京都心から 35 km の距離にあります。東は伊奈町及び蓮田市に、南はさいたま市に、西は川越市と川島町に、北は桶川市と隣接しています。面積は 45.51k m²、東西の距離は 10.48km、南北は 9.32km です。

2. 地勢

上尾市は大宮台地の中央部に位置する起伏の少ない平坦な地形で、西境に荒川、東境に綾瀬川、中心部に鴨川と芝川が平行して流れています。海拔は概ね 15.4m で、最も高い場所で約 20m、低い場所で約 9m です。地質は、農耕に適した関東ローム層です。市の周辺部にはクヌギやコナラなどの雑木林が残り豊かな自然環境を有していますが、近年の都市化の進行により宅地が増加し、農地や緑地が減少する傾向にあります。

3. 都市形成の歴史

本市における都市形成の始まりは江戸時代です。この時代、上尾地区は中山道 69 宿の 5 番目の宿場町として、平方地区は荒川舟運の要衝として、そして原市地区は市場町として、それぞれ発展しました。明治 16 年には、高崎線の上野―熊谷間の開通と同時に上尾駅が設置され、中山道とともに今日の市街地形成の基礎となりました。

昭和 30 年には、上尾町、平方町、原市町、大石村、上平村、大谷村の 3 町 3 村が合併して上尾町となり、3 年後の昭和 33 年 7 月 15 日には市制施行で「上尾市」となりました。間もなく多数の工場が進出し、県内でも有数の工業都市となりました。

昭和 40 年代に入ると、大規模な住宅団地の進出が相次ぐなど、宅地開発が進行するとともに人口が急増し、住宅都市へと発展を遂げました。一方、上尾駅周辺では商業業務施設の集積が進みました。このような経過をたどり、都市機能のバランスのとれた首都圏の近郊都市として現在に至っています。

4. 人口

平成 22 年の国勢調査による本市の人口は 223,926 人で、さいたま市より北の埼玉県内、JR 高崎・宇都宮線沿線都市の中では最大規模となっています。

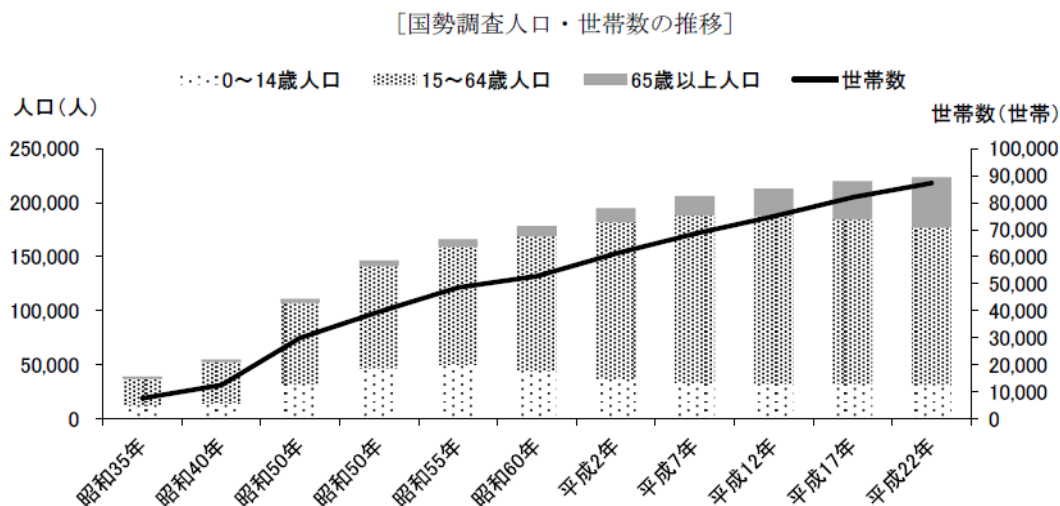
本市の人口は、産業や住宅の立地とともに昭和 40 年代に急増し、昭和 35 年～55 年の 20 年間に 4 倍(400%)を超えましたが、平成 17～22 年の 5 年間は 1.7%にとどまっており、増加のペースは鈍化し、平成 27 年 1 月 1 日現在の住民基本台帳による人口をみると、すでに本市では、人口の減少が始まっていると考えられます。

本市の世帯数は人口と同様に増加し、平成 22 年の国勢調査では 87,286 世帯となっており、世帯数の増加のペースは人口を上回り、1 世帯当たりの人員は低下し、核家族化が進んでい

ます。

また、本市の 65 歳以上の高齢者の割合は上昇し、平成 22 年の国勢調査では 20.8%となっており、今後は、県内平均を上回って高齢化が進むことが予想されています。

(第 5 次上尾市総合計画後期基本計画より引用)



[資料：国勢調査]

5. 産業

平成 24 年の経済センサス（活動調査）によると、本市の事業所数は 6,246 事業所、従業者数は 66,525 人となっており、平成 21 年からそれぞれ減少しています。

産業構造では、卸売・小売業や宿泊・飲食サービス業等の第 3 次産業が事業所数の約 8 割、従業者数の約 7 割を占めており、重要な産業となっています。一方、本市の第 2 次産業の製造業は事業所数が少ないものの、従業者数では約 2 割を占めており、規模が大きい傾向があります。このため、本市は商業都市と工業都市の性格を併せ持っているといえます。

産業分類では、農業は、農家数、従業者数、耕地面積ともに減少が続いており、その一方で農作物の販売額が少ない農家の割合が多くなっています。工業は、工場数、従業者数、製造品出荷額等とともに減少していますが、本市の製造品出荷額等は県内でも上位にあり、自動車や自転車など輸送用機械器具製造業が高い割合を占めています。商業は、商店街（会）数及び会員数が店主の高齢化や後継者不足のほか、大規模店舗やショッピングセンターの進出等によって減少しており、商店街活動が低迷している状況にあります。

(第 5 次上尾市総合計画後期基本計画より引用)

6. 自然環境

本市は、雑木林、農地、湿地、河川が分布し、里山的な環境があります。特に市域周縁部の市街化調整区域には、質の高い自然環境が残されています。本市に残されている里山は、

いわゆる「武蔵野の雑木林」といわれるクヌギやコナラなどの林です。かつて、雑木林は燃料としての薪や、落ち葉を利活用するために人の手が入れていましたが、化石燃料の普及により、次第に人の手は遠退いてしまいました。

一方、人口の急増によって都市化が進展した結果、身近な緑・水辺が減少しており、残された貴重な自然環境を保全するためには、緑地保全制度等のPR活動を積極的に行い自然の大切さを伝えていくことが重要となっています。



領家工業団地



藤波・中分ふるさとの緑の景観地